

大企業から「インターン」



1985年上智大卒。カルチャ・コンビニエンス・クラブの最高執行責任者(COO)などを経て、2010年6月イデオゴアル社長(15年11月から会長)。2014年6月から東証マサース上場のパス最高経営責任者(CEO)。

パス最高経営責任者 柴田 励司氏

「パスはいついかなる時でもコメントを求められるため休むことができない。頭の良さというよりも、突出した気力が求められるのであろうと思っただ。私の「かばん持ち」体験をしたS君の気が知っている大企業の20代の若手社員。私がCEOを務めるパスに研修出向で来ている。

大企業では「仕組み」で事業が運営されている。いきおい、その「仕組」の質的向上、効率化を追求することが多くの社員の主業務となる。その一方で、会社として将来の成長のためにイノベーションも求めている。求めるリーダー像としてイノベーションを意識した「変革の担い手モダ」が語られることが多いのはこのせいだ。パスの新規事業立ち上げ

ベンチャーで修羅場体験

君はその第1号だ。この3月1日からは別の、これまた誰も知っていない大企業から30代前半の若者がやって来ることになる。

出向研修者には私の「かばん持ち」も体験してもらおう。実際に「かばん」を持つことはないが、私のスケジュールに原則として全て帯同してもらおう。私が一日をこのように過ごしているのか、誰と会っているのか、自然増殖しているのか、会議の部活が生まれている。S君たちにはこの新しい試みの真っただ中に身を置き、その体験を大企業に持って帰ってもらおう。ベンチャー企業はこうした挑戦の宝庫だ。

私がパスという会社で挑戦しているのは、買手である生活者が売り手に提案するモデルづくりだ。世の中には売り手から買手への提案があふれている。その手法も多様化している。しかし、この逆はまだ確立していない。何が欲しいか、何をしたいか。買手から発信する。このためのプラットフォームづくりをしている。基盤となる。パスではあと2人くらい受け入れようと思っている。この集団が純粋に買